

School Aid Japan

公益財団法人 School Aid Japan

(スクール・エイド・ジャパン) 代表理事 事務局長 住田

東京都大田区羽田1-1-3 〒144-0043

電話:03-5737-2773 / Fax:03-5737-2793

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp / http://www.schoolaidjapan.or.jp

株式会社 アミックス 樣

ご協力のお礼

拝啓

立春の候、益々ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。 この度は、公益財団法人 School Aid Japan (S - A - J) に

100,000円(学校建設寄付)をいただき、誠に有難うございました。 全額現地の支援に使わせていただきます。

公益財団法人 School Aid Japan は、代表理事 渡邉 美樹が2009年4月1日に 設立しました。設立後間が無いので、事業としては、現在学校を3校カンボジアに、 1校をネパールに建設した所です。そこで、公益財団法人 School Aid Japan 代表理事 渡邉 美樹が理事長として活動してきた前身のNPO法人スクール・エイド・ジャパ ンの9年間の実績と併せてお知らせします。

NPO法人スクール・エイド・ジャパンは、過去9年間カンボジア・ネパール両王 国に教育支援を実施しています。2009年9月までにSAJが建設した学校は、カ ンボジア107校・ネパール7校の計114校になりました。2009年度後期は両 国で10校の建設をしています。これまでに5万人の子どもたちが、快適な教室で勉 強しています。入学率・就学率も高まっています。

井戸や水瓶は、ため池や濁った川の水しか飲み水が無かった村人から「命の泉」と して大事に使われています。トイレの設置は、高学年女子の出席率を高め、衛生知識 の普及に役立っています。2006年度からWFPの支援を受けて始めた朝給食は、 お腹一杯ご飯を食べ元気に授業に臨むので勉強に集中できると好評です。

ふれあいサポートプラン(奨学金制度)は、両親や片親が死亡した家庭、貧しい家 庭の子どもの入学率を高めました。新品の制服を生まれて初めて着た子どもたちが心 から喜ぶ姿に、私たちは胸を熱くしました。今年は675人の子どもを支援していま す。これまでに延べ3、636人の子どもたちに提供しています。



SAJ 建設100校記念校舎 「プレイスワイ中学校」2 階建て10教室の立派な校 舎です。(バッタンバン州)



きれいな井戸水は学校の子 どもたちだけでなく、村の人 たちからも「命の泉」と喜ば れています(カンダール州)



ふれあいサポートプランの 制服・文房具に喜ぶ子どもた ち。新しい服を着るのは生ま れて初めてです。

2006年より開始したふれあいサポートプランを受けている子どもへのお米支援は朝給食と合わせ、1日2回食事ができるので、健康の増進に役立っています。

SAJが支援に入っている12州は、首都プノンペンから遠く、貧しい州ばかりです。バッタンバン州には15年前に村人が土を固めて造った、窓も扉もついてない、雨漏りのひどい校舎があります。配当された新採用の先生は、あまりにもひどい校舎に、すぐに辞めてしまったそうです。バンティミンティ州には学校がない村が多く、学校に通ったこともなく、読み書き・計算も出来ない若者達が多くいます。働きたくても雇ってもらえません。バンティミンティ州・バッタンバン州には、地雷がまだ沢山残っています。地雷が除去された所から学校を建設しています。



地雷原の中に建ててしまった タンギョーン小学校。危険な 為、今は使われていません。 赤い旗は地雷のある場所で す。(ポーサット州)



みんなで集まって楽しく朝 給食を食べます。朝給食の 実施によって出席率や就学 率が著しく向上しました。 (プリエル小学校)



家にお米を持って帰る子。 「家にお米があると、授業 中も仕事中も安心できま す。」(スラッカエル小学 校・お米支援の子)

2008年3月に開園した、SAJカンボジア孤児院「夢追う子どもたちの家」も 1年半を経過した2009年12月現在、75人の子どもたちが入居しています。園 職員の努力により、子どもたちは明るくなり、輝く笑顔に溢れています。元気に学校 にも通い、園外の友だちもたくさん出来ました。園の補習では進んで手を挙げ、勉強 の楽しさもわかってきました。



SAJ カンボジア孤児院 「夢追う子どもたちの家」施設全景



「夢追う子どもたちの家」に入園した子ど もたち。明るい笑顔がもどってきました

皆様からいただきました会費・寄付金は、1円も無駄にすることなく、全額カンボジア・ネパールの小中学校の建設費や教育支援費・奨学金・孤児院運営費として使わせていただきます。引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

略儀ながら書中をもってお礼申し上げます。